

# B-27 細菌汚染布の洗い出し効果について

福岡女大家政 平松園江 合谷美智子 山口大教育 ○上村元子

目的 布の清浄度と洗たくによる菌の除去効果，殺菌効果を明らかにするためには，布に一定の菌を付着させ，それがどれだけ洗い出せるかを明らかにする必要がある。綿布に *Proteus-vulgaris* OX-19 を付着させ，リン酸緩衝液を洗い出し液とし，100回/分 200回/分振盪し，毎回液をかえ，10回くりかえし洗っても菌が残留していることが前報で明らかになったので，さらに洗い出しの方法について検討することを企図した。

方法 供試菌； *Proteus-vulgaris* OX-19, *Escherichia coli*。洗い出し液；蒸留水，生理的食塩水，リン酸緩衝液 (pH 7.2±0.2)，ペプトン 1% と Tween 80 0.1% 生理的食塩水。試布；綿，ポリエステル平織 (4cm×4cm)。振盪回数；約 300回/分。20ml に 1エーゼ浮遊させ分散させたものを原菌液とし，それぞれ一定の菌液を含ませた布を細菌汚染布とした。またそれと同量の菌液を洗い出し液中に注入し，その消長を対象として比較した。洗い出し効果は洗い出し後の液を倍数稀釈し，普通寒天培地上に 0.1ml 滴下し，37°C，24時間培養後のコロニー数から算出した。

結果 洗い出し液の菌に対する影響は *Proteus*, *E. Coli* により多少ちがった傾向を示した。綿布についた *Proteus* の洗い出し効果はリン酸緩衝液よりペプトン液を用いた方が高かった。いずれにしても菌は完全に除去されず布に残留した。